

令和5年度 第3回 廃棄物減量推進部会会議

発言要旨

【日 時】 令和6年2月8日（木）15:00～16:20

【場 所】 西宮市役所第二庁舎6階 B601会議室

【出席者】 5名（欠席者1名）

【会議の概要】

会議成立の確認

委員総数6名中、出席委員5名で、環境計画推進パートナーシップ会議運営要領第3条第2項の規定により、本日の部会は有効に成立していることが事務局より報告された。

1. 令和5年度第2回廃棄物減量推進部会の発言要旨の確認／資料2
令和5年度第2回廃棄物減量推進部会における発言要旨の確認を行った。
2. 一般廃棄物処理基本計画の進捗について（令和5年度ごみ分析結果）／資料3
 - ①事務局より資料に基づき説明が行われた。
 - ・生活系ごみでは令和5年度は特に手つかず食品が増えたという報告があったが、これが一時的なもので、また減っていく状況になるといいと思う。（委員）
3. 東部総合処理センター破砕選別施設の名称について／資料4
 - ①事務局より資料に基づき説明が行われた。
 - ・留意点の2点目に「西宮市の施設と分かる名称」とあるが、6つの候補の中に「西宮市」とついた名称がない。これでいいのか。（委員）
→頭に「西宮市東部総合処理センター」とつけているので、クリアできたと思っている。（事務局）
 - ・「資源」や「施設」という言葉を入れてほしいという説明があったことから考えると、⑤・⑥は外れて、①～④の中から選ぶことになるのか。（委員）
→事務局としては「〇〇施設」という名称が好ましいと思っている。⑤、⑥に関しては、来年度に決める予定の愛称のほうで使えるのではないかと考えている。（事務局）
 - ・④は「資源3R推進施設」となっているが、「3R（3アール）」という言葉は一般市民の方がすぐ分かる状況になっているのか。（委員）
→一般的に環境部門では、3R（リデュース、リユース、リサイクル）」という言葉は浸透していると思っている。（事務局）
→行政の方は当然分かっているし、環境問題に興味を持っている方は分かっていると思うが、普通の一般市民が「資源3R」と聞いてどういうことかと理解できるのか。（委員）

→そのあたりも踏まえてどれがいいかを選んでほしい。我々は当然知っているが、一般市民の方が知っているかどうかという問題はあると思う。（事務局）

→3 Rか2 Rかも少し戸惑ったので、④は少し難しいという感じがする。④に投票しても構わないが、そういう意見があったことを踏まえて投票してほしい。（委員）

投票、開票が行われ、投票総数7票、①3票、②2票、③1票、④1票となり、①の「西宮市東部総合処理センター資源循環施設」が最多得票となった旨が事務局から報告され、部会の確認が行われた。

- ・実は個人的には「リサイクル」ではないほうがいいと思っていた。リサイクルがあることは前提だが、今後は廃棄物を廃棄物としない方向になっていくようなので、長期間使用にたえ得る名称になったのではないかと感じている。（委員）

4. 西部総合処理センター焼却施設整備基本計画(案)／資料5

①事務局より資料に基づき説明が行われた。

- ・8の施設見学については、環境学習都市でもあるので、ぜひ来場者自身が考えるような工夫をしてほしい。（委員）
- ・令和8年度に着工して14年度に稼働とかなり工事期間が長い。令和8年度スタートとなると第5次総合計画（以下「5次総」）の期間中で、5次総の計画として位置づけているという理解でいいのか。（委員）
 - 5次総の計画に位置づけて、6次総に継続していく。（事務局）
 - 5次総の決定事項として事業を始めて、たまたまその完了時期が6次総の中に入ってくるという理解でいいか。（委員）
 - 言われるとおりで。（事務局）
- ・総費用はどれぐらいか、その財源はどうか。（委員）
 - 概算事業費としては、解体工事費を含めた施設整備費が約605億円と想定し、その後20年間の運営・維持管理を行う費用が約263億円を計画に上げている。財源としては、国庫補助事業なので605億円のうち交付金が164億円、地方債が130億円、一般財源が111億円と算定している。（事務局）
 - 一般財源を114億円も投入する計画だが、令和4年度決算で40億円余りの赤字、5年度もその赤字から抜け出せないのではないかという話もある中で、令和八年度着工に向けて必要な財源の確保についての市内部でのすり合わせは十分にできているのか。（委員）
 - 現在、各局では令和6年度以降の歳入の増と歳出の減の数字がほぼ固まった状態にあり、40億円の減については、非常に近い額の歳入まで戻しつつある状況である。焼却施設の建設は非常に時間がかかるが、当面の歳入で明らかにできると判断している。市民や事業者への影響を最小限に抑えながらこの事業を推し進められると考えている。（事

務局)

→いろいろな角度から検討されてこの計画をつくられたし、今はこういう立場にいますので、否定的な立場ではなく、できるだけ早く進めてほしいが、やはりそういう懸念も出てくる。市全般にかなり緊縮状況になるかもしれないが、必要な施設なので前に進めようとしているのだから、滞りなく進めばいいと思いながら、少し心配もあったので聞いた。(委員)

→とても重要な指摘だと思うので、よろしくお願いします。(委員)

5. ごみ電話受付センター運営時間の見直しについて(報告) / 資料6

①事務局より資料に基づき説明が行われた。

- ・データを見てみるとかなりのスピードでLINEに移行しているように見えるので、LINEのサービスで結構いけるのではないかという気がする。現在は、LINEのサービスのほうを好むライフスタイルの人が増えているのではないかと思う。質問の1点目は、LINEはすぐに返事が来るとは限らないサービスだと理解していいのか、どれぐらいの待ち時間で返事が来るのか。2点目は、資料で示された費用は、LINEのシステムを運営する費用を含んでいるのか、電話だけの話なのか。

(委員)

→現在、環境局だけではなく、西宮市の公式LINEアカウントを使って、できるだけ来庁せずいろいろな行政手続きをしていただける方向で進めている。その中で、粗大ごみの収集の申込みをLINEでできる機能を令和2年8月から実装した。今後、電話ではなく、LINEで気軽に申し込めるようになって、電話での受付をしなくてもよくなれば、コールセンター的なものは要らなくなり、受付業務の委託料も要らなくなるかもしれないが、高齢者や障害をお持ちの方でスマートフォンを使えない方も確かにおられて、そういった方を取り残すこともできない。こちらとしては進めていきたいところだが、電話とLINEの両方のチャンネルで受け付けている状況である。LINEの公式アカウントの費用については、市全体で使っているのでもちのちのほうでは費用が発生していると思うが、今回お示しした金額の中にはLINEの運用の費用は含まれておらず、電話受付業務の人件費等である。待ち時間については、申請者の方が「ここにごみを出す」と地図で指示する形式なので、初回申込みの方については、その場所が我々が収集できる場所なのか、車が入れる場所なのかを人の目で確認しなければいけない。一旦仮受付という形でメッセージをすぐに発信するが、その後は、受付の人間が確認して問題がなければ本受付のメッセージを返信する。また、最短での収集可能日時が何月何日以降というカレンダーも表示されるので、そこで収集希望日を選択できるようになっている。今、収集の申込みから実際に収集に行けるまでの待

機の日数は、大体2週間という状況である。(事務局)

→電話でもその期間は一定発生すると思うので、LINEには限らないが、デジタル移行してしまったほうが市民の側も行政サイドもいいと思う。サービスの変更に関しては、私は基本的に賛成である。電話に関してはセーフティネットとして必要だと思うが、それが年間何万件あるとは思えない。もっと積極的にLINEで受け付けられるのであれば、できる人は全部行ってもらうぐらいの気持ちで市民を誘導して、コールセンターは最小限の機能でいいのではないかと思う。私自身は、選べるのならLINEで申し込む。(委員)

→西宮市の公式LINEアカウントのともだち登録者数は11万4,831人で、この登録者すべてが市民の方とは限らないが、それぐらい登録している方がいる。市全体としては、いろいろな情報発信のツールとしても非常に有効なので、市の公式LINEアカウントのともだち登録者数を少しでも増やして、そちらのほうに移行できればと考えている。(事務局)

・他市を見ると、こういう見直しがなぜもっと早くできなかったのかと思う。土・日などの受付時間は西宮市だけ突出しているのだから、これを変更することはもう少し早く提案してほしかったし、なぜ今の時期に言うのかと思う。財政が厳しくなると、何でもそれに結びつけているようで、どうなのかと思う。ごみ減量推進員会議の幹事会や代表者会議で報告されるときに、市の財政が厳しくなってきたので業者に払う金を少なくしたいという感じで言われたら、どうも説得力が弱いという気がする。(委員)

→自治体によって考え方は様々で、これまで西宮市は少しでも市民の利便性を優先して土・日も受け付けてきた。我々としては、他市に比べて過剰となってしまうかもしれないが、他市にないサービスを提供してきたという思いでいた。今回、厳しい財政状況になっていることを受けて、苦渋の決断で時間を短縮したり土・日の受付をやめる判断に至ったので、理解願いたい。(事務局)

→私が言いたいのは、この時代にあえて粗大ごみの受付を土・日にしなければいけないのかということである。市民の方は、それほどせっせと詰まって救急車を呼ぶような感じですがすぐに連絡をとりたいたいわけではなく、計画性があると思うので、あえて言うならば、土・日や時間短縮には賛成である。収集日についても、土・日もごみ回収で苦勞をかけている中で、開いていれば誰かが出なければいけなくなるので、休むことも必要だと思う。持込みの日を見直すことも賛成である。ただ、その理由として経費節減を挙げられると、一言言いたくなった。(委員)

→私も同感である。タイミングが遅い。20年間もこういう形で続けてきて、資料にはいろいろなデータが載っているが、なぜこの時期に見直

すのかという説明が何もない。口頭で説明があつて、財政構造改善基本方針をいの一番に出すからおかしいのではないかという話になってしまう。そのときの説明で何を持ってくるか。時代の趨勢やLINEの話もあったが、行政が施策を進めるときにはやはり市民全体のことを考える必要がある。LINEが簡単に使える人と高齢者などそうでない人も多いのに、どういう年齢の方から電話があつた、LINEがあつたというデータはここにはない。そこは分析していないと思う。行政サービスは広くいろいろな方が使えることを前提に行っていくべきだと思うので、そこは十分に踏まえてやってほしい。また、なぜ変えるのかという理由づけもしっかりと行ってほしい。（委員）

→スクラップ・アンド・ビルドという言葉があるが、スクラップがなかったと非常に反省している。本来ならもっと早くに見直さなければいけなかったものが今になったのだが、私どもの中でも、今回、財政構造の改善を理由にしているのかどうかは協議して、財政構造の改善が一つの契機になって見直すことができたとして整理している。（事務局）

→ごみ減量推進員会議では、業者に委託していることやその経費が浮くなどの説明はやめてほしい。私も長くごみに関わっているが、2号線から北のごみ収集を業者に委託していることはよく知られていても、粗大ごみの受付業務を業者に委託していることは初めて知った。市の職員がやっているはずと思っていた。市民の人は業者がしようと市の職員がしようとあまり意識していないので、できればこのくだりはカットしてほしい。（委員）

→明日、ごみ減量等推進員会議の幹事会があるが、本日の資料の最初の沿革の中の業者委託の部分や4の削減効果額などを明日の資料から削除して説明することは可能である。それでいかがか。（事務局）

→ぜひお願いしたい。（委員）

→それに対応する。（事務局）

→業者委託のことは本当に難しく、市職員の方がしていてもそこには人件費がかかっているの、目に見えるか見えないかの違いである。資料の中で不要と思われるところがあれば対応するとのことなので、それでいいか。（委員）

→それでいい。（委員）

→財政のことについては、率直に言えば見直す機会にはなつた。それが遅かりしという指摘だが、改めるにはわかることなれという言葉もある。そのあたりも含めて、ぜひ市民の協力を得られるような周知広報をお願いしたい。（委員）

6. 今後のスケジュールについて／資料7

- ①事務局から資料に基づき説明が行われた。

7. その他

①事務局からパブリックコメントの結果公表についての報告が行われた。

以上